

日時 令和5年9月15日（金）14:00～15:30
場所 鹿児島市立図書館 2階 AVホール
出席者 図書館協議会委員7名、事務局6名

【会次第】

- 1 開会
- 2 図書館長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 議事
 - (1) 会長、副会長の選出について
 - (2) 令和4年度事業報告及び決算
 - (3) 令和5年度事業計画及び予算
 - (4) 基本的運営方針の指標の達成状況について
- 5 報告事項
ポスター・チラシの取り扱いについて
- 6 閉会

【議事概要】

議事（1） 会長、副会長の選出について

会長を岩下委員、副会長を佐藤委員にお願いする。

議事（2） 令和4年度事業報告及び決算

（利用状況、事業の実施状況、決算）

質疑応答なし

議事（3） 令和5年度事業計画及び予算

（事業計画、予算）

委員

天文館図書館と市立図書館の役割の違いについて、どのように分析しているのか。また、その分析がどのように事業計画に反映されているのか。

事務局

天文館図書館は来館者数が多いが本を借りる方は少ない。しかし、館内で本を読む人は多い。このことから、天文館図書館は館内で本やイベントを楽しんだり、買い物のついでに立ち寄る施設だと認識している。蔵書数は4万冊程であり、レファレンスでは、自館の資料だけでなく市立図書館の資料も案内している。利用者カードの登録者数は依然として多く、交流スペースもオープンな空間なので、これまで図書館に来なかった人が来館しやすい図書館ではないかと感じている。天文館図書館は図書館という施設の入口としての役割があるのではないかと考えている。

委員

分析と5年度の事業計画はどのように関連しているのか。

事務局

1年間運営したことで役割が見えてきたので、今年度もその役割を継続して担っていく。天文館図書館の特徴は自由度の高さである。禁止ルールを設けるのは簡単だが、引き続き、自由度の高さを維持する取り組みを行っていく。

委員

的確な分析である。今年度の事業計画において貸出業務を強化するとの発言があったので確認した。

事務局

市立図書館と協力しながら本との出会いの場を作っていきたい。

委員

特徴を最大化していくとともに、交流というキーワードとレファレンス業務の拡大解釈にチャレンジしてほしい。図書館とサービスを受ける人の関係だけでなく、社会教育施設として利用者がアイデアを発信する場としても機能してほしい。レファレンス業務を強化していく中で、本が好きな人やボランティアが、自分が読んだ本のレビューをICTも活用しながら紹介して、さらに天文館にも広げることで対話と交流の場を作る。職員だけでなく、ファンや本が好きな人がサービスの提供を行うことにチャレンジしてほしい。レファレンスの精度を高めることは職員に任せて、より柔軟に個人的な本の紹介も認めることで、多くの人が本を読んでもみようと思うトリガーになるのではないかと。これからの図書館は本を貸出す場所だけでなく、交流、対話、生きがいを高める場になることを考えてほしい。

委員

鹿児島市内には4つの図書館がある。県立図書館はレファレンス業務に強みがあり、市立図書館は公民館図書室と連携して市民向けの本を収集しており、天文館図書館はカジュアルで、サンエール図書室は男女共同参画に特化している。それぞれの図書館が何を売りにするかを考えないと幕の内弁当的な図書館になってしまう。それぞれの図書館が付加価値を高める必要がある。ICTを利用したサービスの提供に努める中で、ギガスクール構想と関連して朝読書や調べ学習との連携について事務局から説明があったが、学校教育関係者である委員から感想やコメントをいただきたい。

委員

良いことだと思うが、連携の見通しはどうか。

委員

学校によってタブレット活用に差がある。学校図書室の司書が、学校行事に関連した特設コーナーを作っている学校もある。電子媒体を活用する方向性について事務局の考えを伺いたい。

事務局

連携が決まっているものではない。学校に一人一台タブレットがあり、図書館は電子図書館を整備した。

ハードの環境は整っているのが有効に活用したいと検討しているところである。連携した場合は学校で児童生徒へのPRの場を作っていたらと考えている。

委員

市教育委員会と連携して取り組んでほしい。

委員

天文館図書館の事業計画にあるコンシェルジュの活用について、司書とコンシェルジュの業務の棲み分けについて説明してほしい。

事務局

コンシェルジュという常駐のスタッフは置いていない。案内係や問合せ対応と捉えている。定期的に館内を巡回し、お困りの方がいたらお声掛けしている。

委員

理解した。

委員

天文館図書館の職員の研修費について、どのように考えているか。
また、予算編成時に資料費の希望額を伝えているのか。伝えている場合、希望額は通っているのか。

事務局

資料費は市立図書館において予算を組んでいるが潤沢ではない。天文館図書館の希望額は訊いていないが、予算執行時に天文館図書館と相談しながら資料費を配分している。

委員

天文館図書館にとって十分な図書を収集する予算が配分されているのか。

事務局

予算は潤沢ではないが、天文館図書館のキャパシティには限りがあり、選書する際は、市立図書館にない資料で、かつ天文館図書館において需要があると思われるものを選書している。また、テーマ別配架で工夫しながら、今ある資料を活用していきたい。昨年度は寄贈図書が多かったため資料は充実している。職員研修費は指定管理料の中に計上しており、社内研修や外部研修を行っている。

委員

他市の図書館への視察実績や視察予定があるのか。

事務局

昨年度は、社内の研修制度を活用し、職員全員ではないが東京の博物館や関西の博物館の研修視察を行った。

委員

視察を行ったのは公立の図書館か。

事務局

市立の図書館と公立の博物館である。

委員

寄贈図書について、どんな本でも受け入れるのか。

事務局

基本的に郷土資料に限り受け入れている。昨年度の天文館図書館への寄贈図書は、団体から何万円分の本を寄贈するというもので、選書も図書館が行うものである。資料費については、図書は市立図書館や公民館図書室でも借りることができる共有のものなので、天文館図書館単体ではなく市全体で考えていただきたい。

委員

この協議会は市立図書館と天文館図書館の運営について協議する場なので質問したところである。

議事（４） 基本的運営方針の指標の達成状況について

委員

2つの視点から意見を述べたい。1つ目は、図書館は社会教育施設として学習権を保障する存在という視点を忘れてほしくない。学習権を保障する施設として認知度を上げる必要がある。学生に訊くと公民館を自由に使えることを知らない。図書館があるとういことに意味がある。単に本を貸す、借りるだけでなく、学ぶことを保障する場であることをどう告知していくかが重要である。一方で、社会の要請は厳しく、目標値の設定が求められているが、時代はアウトプットからアウトカムに変化している。何を行って、その結果どうなったかが問われる時代である。行政評価がアウトカムに変わりつつあるが、利用者数やレファレンス件数はアウトプットだと思う。アウトカムとは、図書館を利用した人がどう行動したか、どう発展したかである。天文館図書館でいうと、利用者が主体的に活動したのかという指標が今後必要になってくる。どのようにアウトプットからアウトカムに移行できるか。移行するためには運営方針の改定が必要なのか、または改定しなくても対応できるのか。アウトカムへの移行を考慮しながら、図書館の原点を維持することと、どのように変化したかという二軸で、指標を充実させてほしい。

報告事項 ポスター・チラシの取り扱いについて

質疑応答なし

6 その他

委員

市PTA連合会で学校外生活指導連絡会を担当している。連絡会は教師、警察、PTA、教育委員会等で構成されており、補導活動を主に行っている。補導は子供たちをトラブルから守る抑止活動である。センテラス天文館ができるまでは、子供たちは中央駅やイオンにすることが多かったが、センテラス天

文館がオープンして、夜に天文館にいる子供が多くなった。子供たちに話を聞くと図書館に行っていたと言う。図書館に行っていたと言えば大丈夫だということにならないように、センテラス天文館とも連携して補導を行っている。子供たちが夜の 8 時まで堂々といえることができる施設は図書館だけである。今回、委員となったのは、このようなこともあるからである。子供たちの健全育成について図書館と連携していきたい。

委員

何か意見はないか。

委員

初めて出席したが、知らないことも多く図書館が様々な位置付けがあるということを再認識した。

委員

最近、インターネットで本を予約して来館する人が多いのか。

事務局

WEB予約は順調に増えている。天文館図書館は行くのが目的である人も多い。公民館の貸出冊数が増えているのは、WEB予約が増えているからではないかと考えている。本の借り方が変わってきていると感じている。

委員

借り方が変わってきている状況だが、図書館には本棚の中から本を探す楽しみがある。どの館にどのような蔵書を揃えるのかを考えていく必要がある。インターネット予約後の来館時に他の本を見つけてもらうためには、それぞれの図書館にどのような本を揃えるのか、他の館との棲み分けはどうするかを考えていく必要がある。

事務局

天文館図書館はビジネスマンやファミリー層向けの本を置いている。

委員

図書館ごとの特色が出てくると、貸出冊数についても、どの館がどういう分類の本が貸し出されているのかといった細かい分析ができると思う。

委員

総合的に全体を俯瞰して各図書館を構築していく企画力や発想が求められている。

委員

会議室で協議することも必要だが、実際に両図書館を視察して気付いたことや意見を述べる場も必要ではないか。

事務局

活発なご意見いただき感謝申し上げます。図書館も変わる部分と変わらない部分がある。時代に流されやすいが本質を見失ってはいけない。図書館は知的好奇心を満たす場である。満たし方が時代とともに変化している。それらを踏まえて図書館サービスの在り方を考えていきたい。天文館図書館開館時からの課題である、それぞれの図書館が特徴を持ちつつ連携して質の高いサービスを市民に提供していくことについて示唆に富んだ意見をいただいた。できるだけ形にしていきたい。委員のご支援をいただき試行錯誤しながら充実させていきたい。

会議終了